

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



「OMNIedge」保全一元管理ツール提供開始

設備保全の情報をクラウド上で一元管理 進捗状況を関係者とタイムリーに共有

設備保全情報をデジタル化して 保全活動を効率化

THK株式会社(東京都港区、社長：寺町 彰博氏)は、OEE(設備総合効率)最大化プラットフォーム「OMNIedge(オムニエッジ)」から保全一元管理ツールの提供を開始する。

製造現場の 現状と課題

製造現場では人手不足や高経年設備への対応などを背景に、保全活動のDX化やPDCAサイクル効率化需要が高まっている。

THKはこれまで、IoT技術を活用した直動部品(LMガイド、ボールねじ、アクチュエータ)、回転部品(モータ、ポンプ、ファン)向けの「部品予兆検

知AIソリューション」をはじめ、工作機械の切削工具向け「工具監視AIソリューション」を提供し、CBM(状態基準保全)を実現させるソリューションを広く展開してきた。

一方で、製造現場ではCBMに加え、TBM(時間基準保全)やBM(事後保全)なども含めた様々な保全方式をバランスよく管理・運用していくことが求められている。

保全活動の管理・運用を 総合的にサポートする 「保全一元管理ツール」

THKは今回、保全活動の総合的な管理・運用をサポートする「保全一元管理ツール」の提供を開始する。

本ツールでは、設備や保全に関するデータ(保全履歴、修理の進捗状況、定期点検の通知、ワークフローなど)をクラウド上で一元管理して、保全活

動のPDCAサイクル効率化を実現する。本ツール上で設備の不具合や修理の進捗状況を関係者とタイムリーに共有できるほか、突発的な設備の故障にも迅速に対応できる(一例)。

また、日常点検のスケジュールをカレンダー上で一元管理しながら、関係者へ自動でリマインド通知することもできるため、計画的な保全活動のサポートや点検漏れの削減にも寄与する。

CBMに加え、TBM BMもサポート

従来のCBMを実現させるソリューションに加え、TBMやBMなどもサポートする「保全一元管理ツール」を活用することで、設備のTBM、BM、CBMの対応における最適なバランスを実現することが可能になる。

これにより保全効率を向上させて、止まらない生産設備を実現できる。

保全一元管理 ツールの特長

- TBM、BM、CBMなどの設備保全データ一元管理
 - ・設備や保全の情報を紐づけてクラウド上で一元管理。過去のメンテナンス履歴から最新の状況まですぐにアクセスできるため、データの管理工数を大幅に削減できる。
- 計画的な保全活動のスケジュールリングをサポート
 - ・日常点検のスケジュールをカレンダー上で一元管理。関係者への自動リマインド通知機能を使えば、点検漏れを防ぐこともできる。
- 最新状況をタイムリーに関係者へ共有
 - ・故障中の設備や修理対応の進捗状況などを関係者にタイムリーに共有。修理対応の報告から管理者の承認まで「保全一元管理ツール」内で行えるので、運用効率の向上を図ることができる。
- OEE(設備総合効率)最大化プラットフォーム「OMNIedge」
 - ・「OMNIedge」は、製造現場で発生するロスを削減して設備総合効率(OEE)の最大化に貢献するIoTソリューションサービス。センサなどのハードウェア、通信機器一式にAIソリューションをセットで提供するパッケージ型のサービスにより、「簡単」「安全」「リーズナブルな価格」を実現する。

■ラインナップ

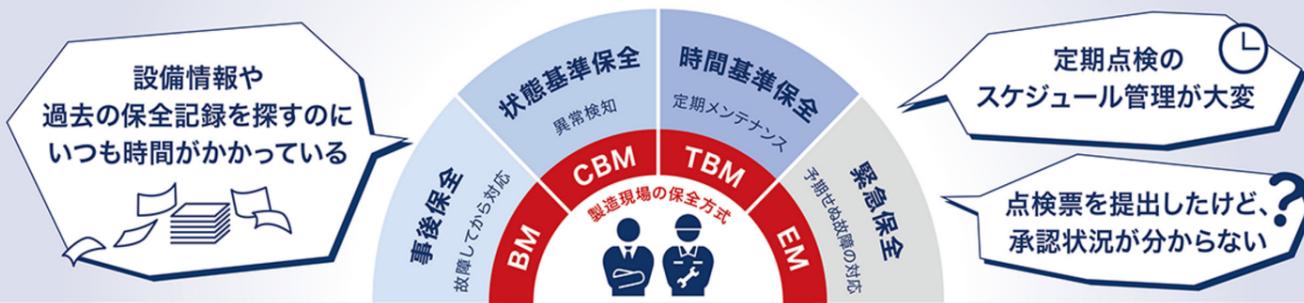
- ◇第1弾：直動部品向け『部品予兆検知AIソリューション』(提供中)
- ◇第2弾：回転部品向け『部品予兆検知AIソリューション』(提供中)
- ◇第3弾：『工具監視AIソリューション』(提供中)

(※資料提供：THK)

OMNI edge



メンテナンス業務の効率化サポート「保全一元管理ツール」



「保全一元管理ツール」がお悩みを解決

	保全一元管理ツール		設備保全データを一元管理 管理工数の削減
	設備情報	保全記録	
	修理状況	点検 スケジュール	設備の故障や修理状況をリアルタイムに共有 スピーディーなBM(事後保全)対応もサポート